



Bーぐる沿線協議会ニュース

第5号

平成24年8月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 文京区区民課コミュニティバス担当 03-5803-1387

千駄木・駒込ルート、過去最高の52万4千人の利用

7月13日にBーぐる沿線協議会が開催され、平成23年度のコミュニティバス運行事業の報告が行われました。

Bーぐるの昨年度の利用者は、千駄木・駒込ルートが約52万4千人（一日あたり1,432人）で過去最高を記録しました。また昨年12月21日から運行開始された目白台・小日向ルートは6万9千人（一日あたり692人）でしたが、新年度に入ってから一日あたり1,000人を超す日もあるなど、今後の利用者の増加が期待されています。

Bーぐるの年度別利用実績

	千駄木・駒込ルート				目白台・小日向ルート			
	乗車人数(人)	運行日数(日)	一日平均乗車人数(人)	同バス1台当たり(人)	乗車人数(人)	運行日数(日)	一日平均乗車人数(人)	同バス1台当たり(人)
19年度	386,292	339	1,140	285	—			
20年度	496,343	365	1,360	340	—			
21年度	509,564	365	1,396	349	—			
22年度	509,959	365	1,397	349	—			
23年度	523,958	366	1,432	358	69,197	100	692	173
累計	2,426,116	1,800	1,348	336	69,197	100	692	173

※ 千駄木・駒込ルートは、平成19年4月26日運行開始。19年度は4月28日からの集計(4月26・27日は無料乗車のため集計には含まれない)

※ 目白台・小日向ルートは、平成23年12月21日運行開始。平成23年12月23日からの集計。(12月21・22日は無料乗車のため集計には含まれない)

2路線を統合した沿線協議会に組織変更

本沿線協議会は安定的なバス運行や利便性の向上を目的に、平成20年8月に第一路線（千駄木・駒込ルート）に対して設置されたものです。第二路線の運行が開始され、第一路線同様に沿線協議会が必要との意見を受けて、事務局から「現委員の任期満了に伴う改選にあわせてメンバーを増やし、現在の沿線協議会を第一・第二路線を含めた形にする。沿線協議会は、大塚・音羽地区町連推薦2名、協賛企業2名、公募委員3名を追加した組織とする」、「分科会を2つ（第一路線・第二路線）設置する」という案が示されました。

元田会長からは、「共通している部分が多いので個別に作るのではなく、現在の沿線協議会を延長するような形で組み立てていくのが望ましい」とのコメントがあり、事務局案が承認されました。



新しい公共、24年度事業の骨格まとまる

東京都の新しい公共支援モデル事業の助成を受け実施している「Bーぐるでつながる新しいコミュニティ創出事業」の平成23年度の実績報告と平成24年度の進捗状況について、運営委員会の佐藤事務局長から説明がありました。

平成23年度に実施した事業は、①Bーぐるの車内で沿線地域の情報を発信するDVDの制作、②「+ワン！」サービスの利用促進に向けた小冊子とステッカー等の制作、③区民まつりへの出展（BーぐるCafe）の3事業、平成24年度は①地域情報発信事業(DVD制作)、②移動展覧会事業、③Bーぐる朝市事業、④ボランティアと会員サポート事業、⑤調査事業の5事業を実施する予定です。

参加した委員から昨年度のDVD事業に関し、区内関係者への事前説明が不十分であったとの指摘と「+ワン！」サービスの目的や経緯、今後の放映スケジュール等の質問があり、事務局から「+ワン！」サービスは「Bーぐるをより魅力的にする目的で、バス停から一定の距離にある飲食店の中から協力を得られた店舗と実施」と説明、事業を担当した委員から「24年度にもDVDを作成する予定であり、新たに参加希望の店舗が出た場合には前向きに検討」、「今回はあくまでも試行的な制作、今後企画を充実させていきたい」との説明がありました。

またボランティア・会員サポート事業については、細部の検討は今後の課題となりましたが、元田会長から「全国のコミュニティバスのパイオニアとして頑張ってもらいたい」とのエールがありました。

24年度事業の内容

1. 地域情報発信（DVD制作）事業	跡見学園女子大学芝原ゼミとの連携により、Bーぐる沿線地域を紹介する(まち歩き等)するDVDを制作する。
2. 移動展覧会事業	文の京生涯学習司の会に委託し、東京大学水越研究室の協力を得ながら「コミかるた」の手法を活用した「心に残るまちの風景」を区報などで公募、作品を車内モニターで紹介。
3. Bーぐる朝市事業	23年実施のB-ぐるCafeに朝市の要素を盛り込み実施する。区設真砂市場にて11月に実施される文京ボランティア・市民活動まつりと同時開催を予定。
4. ボランティアと会員サポート事業	平成24年5月開設のBーぐる沿線協議会のホームページ、チラシ、車内DVD、ポスター等により、協議会活動へのボランティア・イベントスタッフの募集等を継続的に実施。
5. 調査事業	上記事業の実施によるB-ぐるの利用実績やイベントの集客状況、地域への効果等をアンケートやヒアリング等で集計分析し事業の効果を定量的計測するとともに、次年度以降の活動指針の基礎資料とする。

目白台・小日向ルート・新キャラクターの名前を公募

平成19年に文京区コミュニティバス（現千駄木・駒込ルート）の愛称「Bーぐる」は、運行開始に合わせて公募して決まったものですが、運行と同時に登場したイメージキャラクターは、運行事業者である日立自動車交通㈱が「びい」と名付けました。

一方、目白台・小日向ルートの運行開始にあわせて新たに誕生した「びいの妹」は、運行前に名前が決まっていなかったため、平成23年11月に実施した「Bーぐるcafe」において公募しましたが、ピッタリ合ったものがなく、現在、保留となっています。

Bーぐるの運行事業者である日立自動車の横溝委員から「区への問い合わせが多く、このまま名前がないのもご迷惑になるので、Bーぐる沿線協議会の協力を得て公募をするのはどうか」との提案があり、区報や沿線協議会ホームページを通じ公募し、開業一周年（2012年12月）を機に発表することになりました。



目白台・小日向ルートの新キャラクター

編集後記

昨年12月から目白台・小日向ルートがスタートし、千駄木・駒込ルートとあわせてBーぐるがこれまで以上に便利に、区民から親しまれる存在になりました。コミュニティバスが走ることで沿線住民の輪が広がり、地域が元気になる…。今回の新しい公共支援モデル事業がその第一歩となることを期待しています。(N)